

平成22年5月15日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19401046  
 研究課題名（和文） 中国南北の国境地域における多民族のネットワーク構築と文化の動態  
 研究課題名（英文） A Study of Inter-ethnic Networks and Their Dynamics in the Chinese Border Areas.

研究代表者  
 塚田 誠之（TSUKADA SHIGEYUKI）  
 国立民族学博物館・先端人類科学研究部・教授  
 研究者番号：00207333

研究成果の概要（和文）：中国の国境地域における諸民族のネットワーク構築について、その実態と多様性、民族の社会、文化、アイデンティティとの関わり、地域や国家との政治経済的関係を明らかにした。諸民族の文化の動態として、とくに民族の移動と交流について、人・物資・情報などの移動の実態とそのことが民族の文化、アイデンティティに及ぼしている影響を明らかにし、また通婚・経済・文化・宗教的活動など多様な側面を持つ民族間の交流の実態を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：A study was conducted on the construction of networks between the multiple ethnic groups in the border areas of China. The topics included the actual condition and diversity of the networks; their relation to the ethnic groups' societies, cultures, and identities; and their political and economic relationships with regions and the nation. In addition, the dynamics of the cultures of the multiple ethnic groups, particularly movements and exchanges among the ethnic groups were identified. Specifically, the actual status of movements of people, materials and information, as well as how these movements affect the cultures and identities of the ethnic groups were investigated. At the same time, various forms of exchange among the ethnic groups, including marriage, economic, cultural and religious activities were elaborated.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2008年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2009年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
総計	12,800,000	3,840,000	16,640,000

研究分野：歴史民族学・中国研究

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：(1)中国、(2)南北、(3)国境、(4)跨境民族、(5)ネットワーク、(6)文化、  
 (7)移動、(8)山地と平地

## 1. 研究開始当初の背景

中国南北の国境地域には多くの民族集団が居住している。多くの場合、国境線をはさんで中国および隣接する諸国に同一あるいは同系の民族が居住している。こうした民族を「跨境民族」と呼ぶが、中国の南北国境地域において、跨境民族の国境を越える移動が急増している。国境のもつ意味は相対化され、中国と周辺諸国とのボーダーレス化が急速に進んでいる。ボーダーレス化はさらに文化・社会・経済の再編を促している。このような状況において跨境民族がネットワークを構築しており、そのネットワークが東アジア諸民族の生活に影響を及ぼしている。

国境にまたがって居住する多種多様な民族に焦点を当て、中国の国境地域を中心とする東アジア地域における多民族のネットワーク構築の実態とそれら民族の文化の動態を解明する作業が急務である。

## 2. 研究の目的

本研究は、国境にまたがって中国および中国と隣接する諸国に居住する多種多様な「跨境民族」に焦点を当て、それらの民族がなぜ異なる国家に属することになったのか歴史的経緯をふまえたうえで、国境以外の地域に形成された民族コミュニティについても留意をし、中国南北の国境地域を中心として、多民族のネットワーク構築の実態、国境地域のボーダーレス化の実態、それらと民族の文化の動態について現地調査を通じた比較研究を行い解明するものである。

民族の文化の動態として、具体的には、諸民族の国境を越える移動と民族間の交流について、移動がどのように行われ、民族の文化やアイデンティティにどのような影響を及ぼしているのか、また、交流には経済、文化、宗教など多様な側面があるが、実態はどうかを解明する。また、国境地域における多民族のネットワーク構築やコミュニティの実態について、ネットワークの実態はどうか、その民族の社会、文化、アイデンティティとの関わり、地域や国家との政治経済的関係、ネットワーク構築の背景にあるボーダーレス化の進行について解明する。

## 3. 研究の方法

国境にまたがって居住する跨境民族の位置づけについては、これまで中国や隣接諸国の当事者による研究が行われてきたが、それぞれの所属する国家や地域の利害がからみ、とかく主観的になりがちであった。また、政治的・経済的な側面が強調されがちであった。文化の研究も政治的目的のためにとにかく静態的になる傾向があった。

本研究は第三者的立場を生かし、極力客観的な姿勢で、かつ地域の経済にも留意しつつ、文化の動態をメインとする研究を行った。また、資料の収集については現地での聞き取り調査と討議を主体とし、文献調査をも有機的に統合し、最新の一次的資料をもとに実証的な研究を行った。さらに、中国の国境地域のなかで北部と南部とでは自然・人文環境が異なる。加えて山地民と平地民との違いもある。こうした居住地の環境の相違の比較にも十分に留意して研究を行った。

## 4. 研究成果

研究代表者ならびに研究分担者6名が、現地調査や現地討議を実施し、研究報告論文を完成させた。主要な論点は次の通りである。

(1) 中国の国境地域の諸民族の国境を越える移動と民族間の交流について、移動がどのように行われ、民族の文化やアイデンティティにどのような影響を及ぼしているのか、また、交流には経済、文化、宗教など多様な側面があるが、実態はどうか。

この点について、塚田誠之は、広西の国境地域の壮(チワン)族と、広西からベトナムに移住したヌン族との間で交易や親戚・友人の往来、通婚、歌掛けや宗教的職能者の活動など日常的に越境して往来していることを明らかにした。長谷川清は、雲南省西部のビルマとの国境地域のタイ族について、雲南・ビルマの交通路の建設と交易活動の進展、宗教(小乗仏教)活動、漢族移民の移動について明らかにした。また人民共和国成立後に国営農場を雲南の国境地域に建設し、国内の知識成年を含む漢族移民が大量に移住し地元少数民族との間に生じた関係を検討した。

楊海英は、文化大革命期に内モンゴルに漢族の知識青年が下放されたこと、彼らがモンゴル族と交流を行い、新しいモンゴル・漢族

の関係を形成したことを明らかにした。

諸民族が人為的な境界を越えて異なる国民国家に居住することになった歴史的経緯について、松本ますみは、民国期から人民共和国にかけての雲南のムスリム知識人のエスニシティの生存のための活動を彼らの国境を越えた移動史と関わらせて検討した。

吉野晃は山地民ユーミエン（ヤオ族）について、中国からタイへ移住した後、社会組織・儀礼・物質文化などにおいて変容が生じたこと、山地民が平地の漢族文化を受容しつつもそれを運用して自らのアイデンティティの保持に活用する戦略をとったことを明らかにした。武内房司は18～19世紀の雲南南部の茶・綿花の生産と流通に焦点を当てて、漢族移民が移住したことを契機に平地民と山地民の共存関係が変容し、山地民の社会が変容していったことを明らかにした。

樫永真佐夫は、ベトナムの黒タイについて、国家の民族連帯を強化する政治的意図のため、文化的に近い白タイとともに「ターイ族」として認知したこと、ただし黒タイの人々のもとでは、白タイとの対比が意識されており、公式の民族名よりも黒タイという自他称が維持されてきたことを明らかにした。

研究を通じて中国北部と南部との相違が明らかにされた。北部の国境は南部と比較すると閉鎖的で、東西冷戦など国際情勢の影響を受けて厳しく統合され、人々が国境線を相対化して往来することに制約が見られた。また、中央政府との距離や漢文化の受容の度合いも南北の相違点である。山地民は平地民とは異なる文化的適応様式をもっていること、両者の間には交流があり互いに影響を受けたことも明らかになった。また、中国において民族は政治的に分類されたもので、人々のアイデンティティとの間にはずれが見られ、国境地域を研究する際に民族を単位とするよりは、村落や地域社会など人々の生活の現場に注目する必要があることが確認された。

(2) 国境地域における諸民族のネットワーク構築について、ネットワークの実態はどうであるのか、その民族の社会、文化、アイデンティティとの関わり、地域や国家との政治経済的關係、ネットワーク構築の背景にあるボーダーレス化の進行などが焦点となる。

この点について、塚田は、国境地域において壮族がベトナムのヌン族との間にネット

ワークを構築しており、同じ言語を話すという意識に基づくアイデンティティが国境を越えて形成されているが、血縁関係者や知り合い・友人など個人の関係性の相違に応じて結びつきに強弱があること、また、それらネットワークや村落における結び付きは、不安定な国境地域において独自の社会文化の維持のため必要とされたことを明らかにした。長谷川は雲南西部・ビルマ間に仏教の広域ネットワークが形成され、タイ系民族の国境を越えた汎タイ意識が生じたことを検討した。

吉野は、タイのユーミエンの村落を越えた同族の協会やNGO組織の国内ネットワークによる伝統文化を伝承するための活動の実態を検討し、さらに儀礼への参加・援助や祭司の招聘などの面でアメリカや中国在住の同族との海外ネットワークの現状をも検討した。松本ますみは、浙江省義烏市に中東各国からムスリム商人が集結し、国内でも寧夏や雲南から商売、通訳などでムスリムが集結している現状を明らかにし、彼ら内部でのネットワークの実態の検討を行った。グローバリゼーションが進む現代において移動が遠距離に及び、ムスリムのコミュニティが遠隔地に形成され、遠距離ネットワークが構築されたこと、コミュニティの成員がどのように連帯しているのか、さらに彼らの宗教意識の変化について検討した。

研究を通じて、ネットワークの実態と多様性、民族の文化やアイデンティティとの関わりが明らかにされた。国境地域においては個人・地域社会を基軸としたネットワークが重視され活用されており、今後継続して調査を通じて研究を深めることが必要である。また、国境の作用についても一層の検討が今後期待される。国境地域は政治的に不安定で、人の流動性が大きい。不安定な立場におかれた人々が安定や精神的な拠り所を求めて独自の文化やアイデンティティを形成してきたことが推測される。こうした国境地域の文化の独自性を現地で暮らす人々の目線から問い直す研究があらためて求められる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 41 件)

1. 塚田誠之「壮(チワン)族の年齢集団に関する一考察」塚田誠之編『中国南北の国境地域における多民族のネットワーク構築と文化の動態』(平成 19-21 年度科学研究費補助金研究成果報告書)、査読無、31-42 頁、国立民族学博物館、2010。
2. 楊海英「「広闊天地」の内モンゴル自治区へ飛ばされた知識青年たち—中国・文化大革命期における人的流動と社会主義権力の表象」、塚田誠之編『中国南北の国境地域における多民族のネットワーク構築と文化の動態』(平成 19-21 年度科学研究費補助金研究成果報告書)、査読無、101-110 頁、国立民族学博物館、2010。
3. 長谷川清「国境地域の漢族移民、ネットワーク、民族間関係—西双版納タイ族自治州における農場建設と地域社会の変貌」塚田誠之編『中国南北の国境地域における多民族のネットワーク構築と文化の動態』(平成 19-21 年度科学研究費補助金研究成果報告書)、査読無、71-86 頁、国立民族学博物館、2010。
4. 吉野晃「タイにおけるユーミエンの村落を越えたネットワーク」塚田誠之編『中国南北の国境地域における多民族のネットワーク構築と文化の動態』(平成 19-21 年度科学研究費補助金研究成果報告書)、査読無、91-100 頁、国立民族学博物館、2010。
5. 松本ますみ「グローバリゼーションと新しいムスリム・ネットワークの形成—浙江省義烏市における移民を中心に」塚田誠之編『中国南北の国境地域における多民族のネットワーク構築と文化の動態』(平成 19-21 年度科学研究費補助金研究成果報告書)、査読無、9-30 頁、国立民族学博物館、2010。
6. 塚田誠之「中国広西壮(チワン)族とベトナム・ヌン族との交流とイメージ」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北』、査読無、有志舎、84-116 頁、2010。
7. 楊海英「「民族分裂主義者」と「中華民族」—「中国人」とされたモンゴル人の現代史—」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北』、査読無、有志舎、342-361 頁、2010。
8. 長谷川清「人の流動と民族間関係、文化的アイデンティティの動態—雲南ビルマルート、徳宏傣族の事例—」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北』、査読無、有志舎、45-83 頁、2010。
9. 吉野晃「ユーミエン(ヤオ)の国境を越えた分布と社会文化的変差」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北』、査読無、有志舎、237-258 頁、2010。
10. 武内房司「19 世紀前半、雲南南部地域における漢族移住の展開と山地民社会の変容」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北』、査読無、有志舎、117-143 頁、2010。
11. 松本ますみ「近代雲南ムスリムのイスラーム改革と変容するアイデンティティ」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北』、査読無、有志舎、206-236 頁、2010。
12. 塚田誠之「中国広西壮族と越南民族的交流」塚田誠之・何明編『中国辺境民族的遷徙流動と文化動態』、査読有、昆明：雲南人民出版社、1-21 頁、2009。
13. 楊海英「伊斯蘭与蒙古之間」塚田誠之・何明編『中国辺境民族的遷徙流動と文化動態』、査読有、雲南人民出版社、297-319 頁、2009。
14. 長谷川清「宗教実践とローカリティー—雲南省・徳宏地域ムンマオ(瑞麗)の事例」林行夫編『<境域>の実践宗教—大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー』査読有、京都大学学術出版会、131-170 頁、2009。
15. 長谷川清「宗教互動と地域性的再構成—徳宏地区的仏教社会」査読有、塚田誠之・何明編『中国辺境民族的遷徙流動と文化動態』雲南人民出版社、36-69 頁、2009。
16. YOSHINO Akira The Functions of Chinese Literacy in the Iu Mien Society of Northern Thailand. Kashinaga Masao(ed.) , *Written Cultures In Mainland southeast Asia*(Senri Ethnological Studies 74), 117-127, 2009, 査読有。
17. 松本ますみ「跨地区と跨国界的穆斯林女性群体—雲南女子学校の宗教教育と有関女性發展的討論」、査読有、塚田誠之・何明編『中国辺境民族的遷徙流動と文化動

- 態』雲南人民出版社、89-112頁、2009。
18. KASHINAGA Masao, The Transmission of written Geneologies and Patrilineality among the Tai Dan Kashinaga Masao(ed.), *Written Cultures In Mainland southeast Asia*(Senri Ethnological Studies 74) 97-116, 2009. 査読有
  19. 樫永真佐夫「ベトナムにおけるタイ語表記」斎藤晃編『テキストと人文学』査読有、人文書院、229-243頁、2009。
  20. 塚田誠之「広西における『改良風俗』政策について—近現代中国における文化政策の一齣」韓敏編『革命の実践と表象—現代中国への人類学的アプローチ』、査読有、風響社、157-182頁、2009。
  21. 楊海英「清朝時代伊克昭盟盟長バダラホの奏凱図—『圖關勝跡』が描くオールドス七旗」、『国立民族学博物館研究報告』査読有、32巻4号、629-657頁、2008。
  22. 楊海英「ジェノサイドへの序曲：内モンゴルと中国文化大革命」『文化人類学』査読有、73巻3号、419-453頁、2008。
  23. 長谷川清「都市のなかの民族表象—西双版纳、景洪市における「文化」の政治学」塚田誠之編『民族表象のポリティクス—中国南部の人類学・歴史学的研究』査読有、風響社、389-418頁、2008。
  24. 吉野晃・中田友子・安達真平「民族移動の今と昔」秋道智弥（監修・編）『論集モンsoonアジアの生態史 第3巻 暮らしと身体の生態史』弘文堂、127-146頁、2008。
  25. 塚田誠之「中国壮族と越南農族的民族関係と交流」『広西民族大学学報』（哲学社会科学版）査読有、第29巻第5期、2-8頁、2007。
  26. 松本ますみ「キリスト教宣教運動と中国イスラームの近代への模索」『中国21』査読有、28号、127-144頁、2007。
  27. 樫永真佐夫「ベトナムにおける前近代タイ民族史研究について」塚田誠之編『民族表象のポリティクス—中国南部の人類学・歴史学的研究』査読有、風響社、63-88頁、2008。
  28. 堀直「中国・新疆の「地方志」の現段階—現代化の十年」久武哲也編『アジア研究—文化の多様性と現代化』（甲南大学総合研究所叢書32）、査読有、甲南大学、28-43頁、2008年。
- [学会発表] (計9件)
1. 松本ますみ「中国のムスリム女性：女性マドラサのジェンダーポリティクス」、日本国際政治学会 2009年度全国大会、神戸国際会議場（兵庫県）、2009年11月8日。
  2. 松本ますみ「佐久間貞次郎の『回光』と1920年代上海ムスリム」、NIHU プログラムイスラーム地域研究上智大学拠点合同研究会、上智大学（東京都）、2009年7月3日。
  3. Masumi Matsumoto, Debates over Islamic Feminism and Empowerment in Contemporary China. Tree Case Studies, China and Innner Asia Srrsion160, AAS(Association for Asian Studies) Annual Meeting. 2008. 3. 3-3. 6, Hyatt Rwgency, Atlanta GA, USA.
  4. 松本ますみ「国境を越えたムスリム女性教育ネットワークとイスラーム・ファミニズムの誕生」『国際シンポジウム 移動する中国ムスリム—ヒトと知識と経済を結ぶネットワーク』2007年11月25日、早稲田大学国際会議場。
  5. 塚田誠之「中国広西壮族とベトナム諸民族の交流」華僑華人学会 2009年度第1回研究会、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科（京都府）、2009年4月5日。
  6. 武内房司「ヴェトナム国民党と雲南—滇越鉄路と越境するナショナルリズム」、東洋史研究会大会、京都大学文学部（京都府）、2008年11月3日。
  7. 武内房司「“開発”と“封禁”—道光時期清朝対西南地区民族政策的浅析」、「明清以来雲貴高原的環境与社会国際学術討論会」、2008年8月28日—30日、上海（中国）、復旦大学歴史地理研究中心。
  8. KASHINAGA Masao, Transmissions and uses of the Tai Dam chronicles “Quam To Muang”、Modernities and Dynamics of Tradition in Vietnam: Anthropological Approaches, 2007. 12. 17, Binh Chau Resort, Vietnam.
  9. KASHINAGA Masao, Les usages des chroniques dans les funérailles aux villages tai-noirs, Vietnam, Les outils de la pensée : étude comparative des «textes» et de leurs fonctions sociales, 2007. 5. 29, Maison des Sciences de l’ Homme, Paris.

[図書] (計 13 件)

1. 塚田誠之編『中国南北の国境地域における多民族のネットワーク構築と文化の動態』(平成 19-21 年度科学研究費補助金・基盤研究 (B) 研究成果報告書 [課題番号: 19401046] 研究代表者: 塚田誠之) 国立民族学博物館、124 頁、2010。
2. 塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北—』有志舎、361 頁、2010。
3. 楊海英『モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料 (2)』、風響社、818 頁、2010。
4. 塚田誠之・何明編『中国国境地域の移動と文化交流—近現代中国の南と北—』、昆明: 雲南人民出版社、458 頁、2009。
5. 楊海英『モンゴル人ジェノサイドに関する基礎資料 (1) — 滕海清将軍の講話を中心に』、風響社、911 頁、2009。
6. 楊海英『墓標なき草原——内モンゴルにおける文化大革命・虐殺の記録』(下) 岩波書店、289 頁、2009。
7. 楊海英『墓標なき草原——内モンゴルにおける文化大革命・虐殺の記録』(上) 岩波書店、276 頁、2009。
8. 樫永真佐夫『ベトナム黒タイの祖先祭祀家霊簿と系譜認識をめぐる民族誌』、風響社、372 頁、2009。
9. 塚田誠之編『民族表象のポリテクス—中国南部の人類学・歴史学的研究』、風響社、432 頁、2008。
10. 松本ますみ『近現代中国における欧米キリスト教宣教師の対ムスリム布教に関する歴史社会学的研究』科学研究費補助金基盤研究 C [課題番号: 16520429] (研究代表者: 松本ますみ) 研究成果報告書、181 頁、2008。
11. 楊海英『蒙古源流—内モンゴル自治区オルドス市档案馆所蔵の二種類の写本』、風響社、204 頁、2007。
12. 樫永真佐夫&カム・チョン『黒タイ首領一族の系譜文書』(国立民族学博物館調査報告 70)、国立民族学博物館、198 頁、2007。
13. 樫永真佐夫『東アジア年代記の世界—黒タイの《クアム・トー・ムオン》』、風響社、64 頁、2007。

[その他]

国立民族学博物館ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/19401046.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

塚田 誠之 (TSUKADA SHIGEYUKI)  
国立民族学博物館・先端人類科学研究部・教授

研究者番号: 00207333

### (2) 研究分担者

大野 旭 (楊海英)  
(OHNO AKIRA < YANG HAIYING >)

静岡大学・人文学部・教授

研究者番号: 40278651

長谷川 清 (HASEGAWA KIYOSHI)

文教大学・文学部・教授

研究者番号: 70208429

吉野 晃 (YOSHINO AKIRA)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号: 60230786

松本 ますみ (MATSUMOTO MASUMI)

敬和学園大学・人文学部・教授

研究者番号: 30308564

武内 房司 (TAKEUCHI FUSAJI)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号: 30179618

樫永 真佐夫 (KASHINAGA MASAO)

国立民族学博物館・民族社会研究部・准教授

研究者番号: 10342643

### (3) 研究協力者

海外共同研究者

廖国一 (LIAO GUOYI)

広西師範大学・旅游与歴史文化学院・教授

僧格 (SENG GE)

西北民族大学・民族学与社会学院・教授

何明 (HE MING)

雲南大学・民族研究院院長・教授